

# 親しく正しく和かに

当山先々代三吉日照上人の提唱による  
当山スローガンです  
揮毫＝大本山本興寺御閑士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）  
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。  
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに  
広くお読みいただければ幸いです。



No.59

令和7年1月1日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉  
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1  
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427  
ホームページ <http://myojyuji.or.jp>



## 計報

当山および当住上人有縁の諸上人、尼上人の自受法楽と  
山木ご総代の追福作善をお祈り申し上げます。

- 9月19日 高橋顯昭上人遷化 智晴院日顯上人日照上人徒弟 大阪妙道寺第三世住職（世寿90歳（テラス57号インタビュー参照））
- 9月27日 清水常光上人遷化（大本山本興寺執事長・尼崎本成院第四十三世・法華宗教学部長） 世寿74歳 本隆院日常上人
- 10月5日 田中光成師遷化（町田市養蓮寺住職 東京ブレイスクラブ元会長） 世寿75歳
- 10月6日 難波宏正上人遷化（大阪・池田市本養寺第四十三世） 世寿68歳 開妙院日道上人
- 10月15日 野上妙經尼上人（横浜妙榮教会第五世）世寿100歳 智教院日經大徳
- 10月30日 渡邊元秀上人（岐阜市円経寺第二十六世・妙了寺第四十二世） 世寿82歳 龍峰院日清上人
- 10月25日 山木正幸氏（当山総代）世寿76歳 正覚院智應日幸居士

## 発刊

妙壽寺の江戸期鴻池屋・永岡成美の生涯に迫る



国内外で人気の高い琳派の画家、酒井抱一のパトロンの一人が江戸の富商・鴻池屋永岡成美です。永岡成美は、商いばかりではなく文化面にも執心した人物で、茶道具を中心とする多くの美術作品を蒐集しました。成美の美術品に対する眼差しは抱一を通じて磨かれ、また抱一の弟子・池田孤邨との交流にも発展しました。本書では、永岡成美の活動の様相を、所蔵した美術作品や菩提寺である妙壽寺（東京都世田谷区・法華宗）との関わり、さらには江戸の材木商・冬木屋上田家との関係を概観する一書です。（リレーコラム参照）  
※本書をご希望の方は当山受付までお申し込みください。

著／宮武慶之  
発売日：2024/12/3 B5判 並製 152頁（カラー8頁）刊行／淡交社



「華の宴」（一・双屏風右隻）中村美希画 猿江別院所蔵

## リレーコラム No.15

### 『酒井抱一のパトロン 永岡成美』緒言より 三吉廣明

この度、住職寺・妙壽寺の江戸期檀越の鴻池屋・永岡家、とりわけ永岡成美の研究書が、宮武慶之先生により上梓され、淡交社より刊行の運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えません。（右に掲載参照）  
令和二年、小職が病床より帰山した直後に、先生より永岡家調査依頼の端正な巻紙自筆のお便りをいただきました。壮年の学者からのご依頼と思いましたが、その夏、當山に足を運ばれ、同家墓所を一心に調査される先生は、好男子の若き学者者でありました。  
當山先々代大僧正日照上人は、昭和三十年に遷化（逝去）し、その祖父（日照上人）の二年後に小職が誕生し、かつ、師父顯道上人も十一歳の折に遷化し、この祖父と師父が健在であったならば、當山墓域の宗祖報恩塔の並びという特別高い位置に墓所のある鴻池屋・永岡家について、多くを語り継いでもらえたはずで。

今回の研究成果により、鴻池屋・永岡家の歴史が明らかにになり、当時の妙壽寺住職や檀信徒の様子が、特に研究対象である成美が、その経済活動や美術茶の湯と深く関わる根底には、深い信仰心があったことが確認できたことは、大きな意義があり、近世仏教史においても貴重なことと存じます。  
この度の成美の研究により、江戸期の鴻池屋が法華宗を重んじた豪商としてではなく、美術を追求した篤信の檀越であったことが明らかとなり、妙壽寺を預かる住職として、古の檀信徒への感謝の気持ちを持たせるものであります。さらに、成美の息子が裏千家玄々斎宗匠の弟子であったという事実に触れ小職も青年会議所茶道部として家元坐坊斎宗匠の末弟にありまふことを思うと、深川界隈で茶を愛する人々の行き来に混ざっていたにいたる様な不思議な心持ちがいたします。  
本誌が刊行され、日本文化の精華である美術と茶の湯について、江戸期の法華を重んじた豪商が深く関わり、その人物や人となりについて「興味をお持ちいただき、現在の私共にとって日々の暮らしの中で、日本文化・宗教文化が心の糧になるきっかけとしていただければ幸いです。（部抜粋）

## 宗務院 DIARY

- 9/17・10/9 内局会議
- 9/9～11 教学研究所総会
- 10/29～31 法華宗中国区教学講習会

## 法要のご案内 (別紙参照)

- 2月3日(月) 節分会追儺式(豆まき)
- 3月20日(木・春分の日) 春季彼岸中日法要  
初座：午前11時 第二座：午後2時 動物諸霊法要・正午
- 5月2日(金) 猿江稲荷大祭法要 午前11時 猿江別院
- 7月16日(水) 午前11時 新孟蘭盆会法要(新盆)  
正午 動物諸霊法要  
午後2時 孟蘭盆会法要

## 猿江別院御写経会

2月13日(木)・4月3日(木)  
※毎回、木曜日 13時～19時 参加費：500円

## 新規墓所 ご案内

- 3尺×4尺＝6基
- 3尺×3尺＝6基
- 2尺×2尺＝8基

詳細は当山までお問い合わせください。

## 正隆会

[SHORYU-kai]  
午後2時開催

月例講  
ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人となたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

- 1月11日(土) 初題目・勉強会「法華経への誘い」拝読10
- 2月13・14日(木・金)『撰時抄』『報恩抄』述作記念千葉団参
- 3月10日(月) 終戦80周年・東京慰霊堂参拝
- 4月12日(土) 勉強会「法華経への誘い」拝読11
- 5月2日(金) 猿江稲荷大祭法要 11時 猿江別院
- 6月14日(土) 勉強会「法華経への誘い」拝読12

- 8月21日 伊東海施餓鬼 5年ぶりに組板岩宗御尊像 船参拝①
- 11月23日 御報恩会式
- 9月29日 秋季彼岸会・御会式法要
- 10月3日・12月5日 写経会

## 予告 令和6年度 法華宗団参 (予定)

- 宗祖 750 遠忌に向けて信心増進並びに『報恩抄』述作 750 年、道善房 750 遠忌を記念し、師恩に奉ずるべく、霊跡を参拝します。
- 期日 令和7年2月13日(木)・14日(金) 一泊二日
- 宗祖霊跡 鷲山寺・清澄寺・誕生寺・妙蓮寺
- 観光 道の駅・海ほたるPA、等

## 俳句事始

長月 神無月 霜月

はらり落つ花弁受け止む蓮の花  
亡骸の蟬の片われ運ぶ蟻  
真夜中も時を惜しむか蟬の声  
三条の橋の異人に秋の風  
鉢選ぶ数多蕾の小菊かな  
新米を供え額ずく御命講(お会式)  
友遊けり好物新酒塩むすび  
鎌倉吟行  
兵の影晩秋の切り通し  
禅寺の木鐸響く秋の風  
鴉鵒

## 当山新職員のご紹介

昨年末をもちまして引退された當山境内・墓所担当の西澤國光氏に代わり、新たに中村俊一氏(写真)に後任をお願いすることになりました。まだまだ不慣れですが、ご協力をお願いします。今後ともよろしくお願いいたします。



## 寺日記

てらにつき

- 9月1日 東京都慰霊堂秋季大祭・関東大震災慰霊供養 於 兩國②
- 9月2日 茂原本妙寺・東金上行寺吊問
- 9月13日 宗教法制研究会 於 赤坂見付
- 9月17日 興隆学林三先生頌壽記念論文文集奉呈式・祝賀会 於 京都格蘭 ビアホテル
- 9月22日 秋季彼岸会中日法要
- 10月5日 納骨堂第22回建設委員会
- 10月12日 御会式・落語会 (三遊亭金朝師)
- 10月15日 東京都仏教連合会常務理事会 於 浅草ビューホテル
- 10月17日 仏教伝道協会授与式 於 芝公園
- 10月22日 TV「じゅん散歩」高田純次さん取材のため来山(12月11日放映)
- 10月23日 金沢月心寺岩崎宗瑞師懸釜
- 10月26日 TRC俳句会鎌倉吟行④
- 10月27日 竹灯籠能落語会 能Ⅱ浅見慈一師「百万」落語Ⅱ春風亭一之輔



- 11月1日 二席Ⅱ真田小僧 式席Ⅱ化け物使い⑤
- 11月3日 第5回鍋島客殿保存会開催
- 11月3日 宗祖第743遠忌忌御会式・七五三法要⑥
- 11月8日 台湾・鄭成功生誕400年で献茶式 於 台南市「延平郡王祠」
- 11月15日 長崎県平戸藩主・松浦家第41代当主松浦章氏(茶道鎮信流宗家) 婦人会総会 於 帝国ホテル⑦
- 11月22日 全日本仏教会理事會 於 芝明照会館
- 11月27日 日蓮聖人門下連合會 於 京都妙蓮寺
- 11月28日 東京都葬祭業協同組合創立70周年記念式典祝賀會 於 東京プリンスホテル
- 12月1日 納骨堂第23回建設委員会
- 12月2日 京都桐蔭席・岩崎宗瑞師懸釜
- 12月4日 沼津大本山光長寺貫首 久保木日將現下管長推戴式 於 有楽町朝日ホール
- 12月14日 東京ブレイスクラブ成道会チャリティーパーティ 於 帝国ホテル
- 12月14日 中央義士会 於 高輪泉岳寺



# 長島美保子氏

(当山檀家・婦人会)

聞き手 三吉廣明上人

令和6年10月17日

於 中央区勝どき・長島夫人宅

## 米寿記念として自伝を出版

**住職** 今日はありがとございます。今日から組寺の御会式が始まって、その足でこちらに参りましたが、ますますお元気で。先日は猿江別院の初めての試みで、10月12日の御会式に合わせ、落語会を開催しましたが、猿江別院にお出まじただきありがとございました。

**長島** ちょうどいいスペースですね。

**住職** はい、ありがとございます。私、長島奥様に本当にお世話になりつ放しですが、今日はそういう中でお話を聞かせていただきたい。実は本紙前号をご覧になったと思いますが、村田雅一「ご総代が東大の日本文化研究会で、おたくになった元総代の長島伸行」ご主人様とも一緒にだったというお話を伺って、これはもうぜひ奥様にいろいろとお話を伺いたいなと思った次第です。それで、初めに伺いたいと思ったのは、『米寿記念「ミホ恥かき人生」という「ご自分のバイオグラフィーをお書きになりたい」と思ったきっかけは何でしょうか。

**長島** きっかけは全く単純で。コロナ禍でうちに籠る時間が多くなって、テレビのサスペンスばかり見ているのも、術後のリハビリにもよくないし、頭もぼけてきちゃうし…。

**住職** コロナ禍の初めの頃に、転ばれたのですか。

**長島** 酔っぱらっていたから。タクシーで送られて、「おやすみ」って体をねじりながら挨拶して階段に(足を)かけたの。そうしたら、それが踏み外したんだか、ねじれたんだか分からないけど。すわり込んで。



長島美保子さん



当住上人。48階から東京タワー、スカイツリー、眼下には浜離宮を望める



**住職** 膝ですか、腰ですか。

**長島** 大腿骨骨折です。へなへなへなともう立てなくなっちゃったのね。

**住職** そういう中で、やはりご自分としては、こういうコロナ禍の中で、そしてリハビリの中、自伝を書かれたわけですね。大変面白く拝読させていただきました。ただちょっと私的には、長島さんの人生はすごくドラマチックだから、割と予定調和みたいにつまきまとめられ過ぎちゃっているかなって。(笑)

**長島** いや、私の大学時代のお友達も「あなた恥づいから、もっと恥がいつぱいあったじゃないか」って言われて。(笑)

**住職** ご主人様の七回忌は「つぎど田村」で行われましたが、『追憶 長島伸行追想集』というご本が出ました。私も一文を寄せさせていただいています。

**長島** それも本当に思いつきです。七回忌でちょうど家業の長島印刷が創業100年、これはちよつと何かしなきゃと思ったんですね。

**住職** ああ、なるほど。

**長島** それで、取りあえず今までお付き合いの皆さんに思い出を書いていただいて。

**住職** 分かりました。それで「恥かき」のご本の最後に、これが長島印刷の最後のお仕事、出版になりました。

**長島** そうなんです。

**住職** すばらしいなと思いました。私ね、あの中で書いたのは、やはり亡くなった長島ご総代にたくさんのお話を教えていただいたこと。私、私の母の葬式の際にたまたま長島ご総代と一緒に帰ることになった私の生涯の恩師である立正中学・高校の太田昭夫先生とお話された話の中で長島ご総代が、「若い廣明さんにはお母さんが亡くなって大変だと思っけれども、小さいままとまらないで、おおらかに大きく育ててほしい」と。それを先生が、「ご自分のことを言っていたら檀家さんがいるっていうのは本当にお前は幸せ者だ」とおっしゃっていた。ききました。太田先生が昭和4年、それでご総代は昭和6年のお生まれです。

長島ご総代がつくつくおっしゃっていたのはもう30年も前ですが、今日では、政治も何もおかしくなっているのは、昔は旧制高校で教養を教えていたと。それはアメリカなど、いわゆるリベラルアーツのようなもので、幅広くい

ろいろなことを経験して、その後に政治家とか医師になるという選択があったが、今はそういう教養をしっかり教えるということがないから日本の教育がいけないのではとおっしゃっていたのが、すごく私にとっては印象的。

**長島** それはあると思います。

**住職** それで、お伺いしたいのは、そういう中で、私が小学生の頃に父に連れられて、あれは市谷柳町に遊びに行ったときに、多分順子さん(三女)はまだお生まれになっていない、長女の智子さんと次女の英子さんの3人で遊んだという記憶が、私にとっては五、六歳の頃が初めてなんです。あの頃は、長島家にとつてどういう時代だったのですか。

**長島** あの頃は、2歳違いの二人の女の子がいて、子育てっていうよりは、2人のおばあちゃんがいる、私の結婚のときから主人の生みの母親との連絡も大げらに取るようになったという環境の中でした。あまり自分の家族というよりも、何か一般的ではない家庭環境で、新しい世界に飛び込んでいく感じでした。

**住職** あの「恥かき」の中では、市谷から奥様も会社がある銀座に通っていたというお話ですね。それは、通つてやはり社長夫人としてのいろいろお仕事とか、お顔つなぎとかもしていたのですか。

**長島** とても恵まれたのは、義父の大きいおばあちゃん(義祖母)と、姑と呼んだ後妻さんとはとてもいい人で、2人がいたことによつて、たどめるくしてくれればいい。めそめそされちゃ困る。こういう生い立ちの息子(主人)というが、ただ私は社長夫人として、ただ明るく、その場を和ませていけばという感じだったのね。だからいわゆる主婦的なことは、一切おばあちゃんやってくれていたし、それで私は女中さんを連れてきていたものだから一切ないし、気が利かなくても、何もできなくても何も文句を言われることはない。そんな感じでした。それがラッキーって感じ。

**住職** そういふ大家族で、そこに従業員さんや住み込みの方もいたし、私が大学3年生のときに住職を務めていた母堂が亡くなり、そこから主人に、当時は世話人でしたが、いろいろご相談を始めて、それから私が大学生で住職になったときに、何かの折にはちよつと相談事として連絡して、「いや、住職、遊びにいらつしやい」と。お檀家のお宅に上がるというのは、お仏壇にお経を上げに行くとか、そういうこと以外で尋ねる、いろいろ飲み食いをするシーンをつくっていただいてよく遊びに行きました。だから、私の中では、3階建ての銀座の木造の社屋、それから1階のところに昔の印刷機械(活版印刷)、たくさん活字の置いてある、ああいうのを目の当たりにできま

話がずれちゃいますけど、何かあるとき長島さんが「住職ね、うちの中では大きいワンコがいて、そのワンコと僕しか雄はいないんだ」という話を聞いて、これは結構笑いました。(笑)

**長島** 本当にそうなんです。だから、女護国に

いるようなんも。女はもうせう歳から90歳までずつといて。(笑) 私は大家族で使人も

いるところで、育ちましたから。

**住職** 青森県弘前がご実家ですね。

**長島** ただ弘前と東京と違うというだけで、環境的にはあまり変わらないというか。あまり違和感はないかなって。



ハケ岳音楽堂で長島伸行総代と

**住職** ああ、なるほどね。でも、「恥かき」にもありましたが、同時期の木挽町の長島家は独特ですね。

**長島** だから、いい面も悪い面もあります。東銀座という地名がついていますが、歌舞伎座も東銀座です。今、それを見直そうという運動が起きている。昔の木挽町でいいのではと。ちよつと築地寄りの、昔の木挽町、その界隈をずっと網羅して、歌舞伎座を中心とした古い文化を守るというつながりができている。

**住職** 私が大学を終わる頃に住職に就いて、それからお伺いしているときは、お伺いまだ万安楼(まんやうろう)料亭がありましたね。

**長島** そうなの。

**住職** 長島家の氏子神社はどこですか。

**長島** 鐵砲洲です。

**住職** ああ、やっぱり鐵砲洲ですか。私が大学を卒業してお坊さんの学校に行き、その後に住職を務めて、その頃に長島家に出入りしていたときは、先ほどおっしゃった後妻のおばあさまがちよつとたばこをくゆらせている姿で、その横で次女の英子さんが受験勉強をしている。そういう光景を覚えています。そういう時代でした。

**長島** まず階段があつて、上に丸窓があつて、そこが居間で、大きいおばあちゃん、長火鉢のそばに銅壺があり、いつもお湯でお茶を入れてくれる。あるいはおかんをつけてました。

## 生い立ち、そして縁

**長島** 今本当にありがたいと思うのは、ぼーと育つて、天真爛漫でそういう私を、長島は自分の生い立ちから考えて、人間が自然に素直に育つていうことはこういうことなんだなと思ってくれた。それを直そうと思わず、それを大事にしてくれた。それが私には一番ありがた

いと。だから、人の目なんて全然気にしないで、それが伸び伸びと育つていうことはこういうことなんだなと思つて、欠点を長所として守つてくれた。

**住職** ご主人が何かの話の中で、結局奥様は大家のお出じやないですか。先ほどおっしゃったように、使用人の方々にはいろいろな世代がいる、そういう人たちが一緒に生活している。出入りの方々もいたという中で、「うちのやつは、米屋でもクリーニング屋でも来ると、中に入れて飯を食わしちゃうんだ」という話があつて。(笑)

**長島** そうそう、玄関先じゃなくて上げちゃうの。

**住職** やはり東京よりもその辺がローカルな良さです。

**長島** おばあちゃんにすごく言われたもん。何も保険の外交員を上げることはないとか言われた。(笑)

**住職** (笑) やっぱり私もお寺ですから、ありとあらゆる方たちがみえるわけ。やはりその点はちよつと似ている、それは面白いなと思いました。

**長島** やっぱり田舎育ちなんですよ。それで声がかいでしょ。『船頭のかかあじやないんだから、そんなに声出さなくても』って。「丁目の角を曲がると、あなたの声聞こえているよ」と。その辺はね、やっぱり田舎者だねって。さんざん言われましたよ。(笑)

## チャレンジ精神が多趣味を生む

**住職** 平成になって、「主人が亡くなる10年ぐらい前から、もっと前ですか、奥様がそういう中でのいろいろな趣味に目覚めていく。私は、根っこっていうのは、東京女子大学の建学の精神もあるし、いろいろなことに興味を持たれて。

**長島** そうなの。いろんなことをやりました。

**住職** 長唄とか洋楽とか。ただ、私がお知り合いをさせていただいたときは、絵とシャンソンですね。それはやはりご自身にとつてすごく大事なことだったのですか。

**長島** 絵はもともと好きだったんですけど、絵をやめて歌に、ボーカル、シャンソンに走ったというのは、絵の個展をやつてからです。壁面に40点かけたら、子供たちから、終わったらこの絵をどこにしまふのって言われたんです。そこまでは考えていないわけですから、今まで描いたものはキャンバスだから、枠をはずして重ねて丸めてエレベーター室にでも何でもしまつておけばよかったけど、額装したから、さあしまつとこがないわけですよ。そこで、形に残る恥はかくのをやめた。形に残らない恥つて何だろと考え、歌かなと思つて。(笑)

**住職** なるほどね。

**長島** それまで、私、声は悪いし、全然歌う気はなかった。ただ、シャンソンだけはね、語りでいいのよって言った人がいて、何も音程が外れようが自分なりに歌えばいいのよって。オペラじゃないんだからそんなに声をださなくてもいいというのを聞いたことがあつて、シャンソンぐらいならと始めたんです。そうしたら、いきなり先生が、「銀座シャンソンフェスティバル」というのがあるから、私を地元の舞台に出せば集客ができるぞと踏んだのだらうと思ひます。だから、私に「特訓するから一曲でも二曲でも歌つて」と。えっ、だって3か月も習っていないのに、いきなり舞台ですか。って言ったんですが「大丈夫、大丈夫」と言われて。

**住職** 私の河東節みたいなもんです。(笑) 私は3か月でした。

**長島** それで、もともと小学校のときから、そういう舞台に立つことは何とも思っていないから、そうしたら、もう初めてと思えない舞台度胸とおだてられて、これはやらなきゃと思つたんです。

## 人生はケセラセラ

**住職** 私は奥様とお会いして、また長島ご総代とは全く違う面でいろいろ感謝をしています。くよくよ考えるときもないこともない、そういうときにお会いすると、「いや、人生はケセラ

セラだ」ってよくおっしゃっていましたね。

**長島** 要するに無責任でズボラなんです。

**住職** 言葉を換えると、人生はあざなえる縄のごとしで、局面的なことよりも、これは多分長島さんと太田先生とそういうお話をされたと思いますが、やはり現象を本質としてしつかり見なければいけません。現象に振り回されてはいけないことがきつとあると思います。でも、奥様のそういう前向きな姿勢は、私は本当に力づけられました。

やはり私の母の生きざまを見ていると、男社会でしたから非常に苦労もしていましたし、いろいろ大変なことがある中で、それを乗り越える1つの活力源というパワーになったように思うのですが、「ご自分のそういうポジティブな面はどこから来ているのですか。

**長島** ロータークラブに入つたときに、古くからの女性会員の方がいました。その方に、意地悪された時、長島に言ったことがあるんです。「もうあのね、私が鬱陶気を壊すとか。私何もしゃべっていないよ何もしていないよ」って言つたら、「世の中には、あなたが何したとか何をしゃべったとかじゃなくて、あなたがそこにいる、その存在そのものが気に食わなく思う人だっているんだよ」って言われたの。

ああだこうだつてあまり考える必要はないと思つた。思う人は思えばいい。「ごめんなせ(津軽弁)」ってやつていればいい。だから、もうそれこそケセラセラで、あなたのために傷つたかと思つた、謝ればいいことで、よく思われようとか、弁解しようとか一切思われない。だから、健康で、明るく楽しくいければいい。

## 妙壽寺の「トライアングル構想」を願う

**住職** 長くお寺にお尽くしをいただいて、「ご主人にこれご総代も務めていただいた中で、お寺について思つてはあります。

**長島** キリスト教系の病院はいわゆるホスピスケアや緩和ケアがありますが、主人が亡くなつて思つたのは、仏教を中心としたいわゆるエンドケアのようなものが一切ないわけですね。ですから、せっかく住職さんは鳥山に妙壽寺という立派な本院があつて、それからめたく猿江別院ができて、お母様の代からずっとある藤沢の晴明庵がありますが、その3つの拠点

を精神的な支柱に分け、本院はリビングの精神の基本であり、よりどころとして捉えて、猿江別院はカルチャーを中心とした文化育成のようなもの、晴明庵は環境もよいので、仏教を基準とした精神の支柱の場にしてほしい。だから、トライアングル構想と、私多分言つたことあるでしょう。

**住職** ええ、それは前にも、「主人にも、ほかは言っていないですけど、晴明庵のことは、ご主人のお考えでした。私の代でどこまでできるかはともかく。

**長島** でも、「ご住職はいろいろと忙しいことがいっぱいあるから。

**住職** お二人からお受けしたお気持ちに報いるためにも、今後はそういう方向で精進したいと思ひます。本日はどうもありがとございました。

**長島** ありがとございました。(一)